

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <p>・「活動への参加について学部・学科また個々の教員間で意識の差が大きい」ことを自己点検・評価しており、さらなる改善を期待したい。</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>【特筆すべき事項】</p> <p>貴大学の特色を活かして、個々の教職員や組織体によって多岐にわたる社会貢献・国際貢献活動が行われていることは評価できる。</p> <p>【改善提言】</p> <p>多くの社会貢献活動等に関して、一定の成果は見られるものの、その活動の検証が組織的に十分行われていない。これらの活動を大学としての強みに結び付けられるよう、大学全体としての活動の集約と次年度以降の計画への反映が求められる。また、これらの活動は組織的にホームページに掲載し、積極的に公表することも必要と思われる。</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p><外国語学部></p> <p>・『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）のPDF化（公開）のためのコンプライアンスを確認し、公開を実現する。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部、語学教育研究所
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	<p><外国語学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度の実施計画として、『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）を改訂して社会に公開する予定であったが、角川書店と検討の場を設けたにもかかわらず、改訂作業に対して学園から承認を得られておらず、未着手のままである。 ・「学外組織との連携協力による教育研究の推進」、「地域交流・国際交流事業への積極的参加」に関する取り組みは現在まだ十分に整備されていない。地域交流に関しては、英語学科で板橋区立西台中学校との連携を始めている。 ・2016年度外国語学部事業として「多文化共生リーダー養成プログラム（MLP）推進事業」を行う。 <p><語学教育研究所></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 語学教育研究所の研究成果である学術雑誌『語学教育研究論叢』、及び学術図書である『語学教育フォーラム』を国内の他大学の図書館・関連研究所へ送付すると同時に、国内外により広く配信するために2015年度発刊の号より大東文化大学機関リポジトリで登録・公開を開始した。また、各年度の研究所の活動内容を『語学教育研究所所報』として外国語学部教員に配布し、同時に、学内や一般向けにホームページ上にも公開をして、周知を図っている。 ② 学外組織との連携協力による研究活動においては、ほぼ毎年、海外の研究機関より本研究所に対して研究員の受け入れの要請があり、2015年度は、中国の上海交通大学人文学院副教授の呂浩氏を客員研究員として招聘し、現在呂浩氏は本研究所研究員の原瀬隆司氏と中国語学科教授丁鋒氏との共同研究を実施している。その研究成果の一部は、本研究所発行の『語学教育研究論叢』第33号に発表済みである。今後の成果についても、学内や学外の学術専門誌に公開する予定である。 ③ 本研究所で開催する講演会は、外国語教育研究や言語研究を主としたものばかりではなく、地域住民が参加しやすいようなテーマも取り上げている。大学院日本語文化学専攻と本研究所が共催したシンポジウムは、「東西文化の融合」というテーマで開催しており、教員・学生の他に地域住民の参加も少なくない。
8-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p><外国語学部></p> <p>(1) 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【×】</p>

	<p>具体的事例： (2) 学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】</p> <p>具体的事例： (3) 地域交流・国際交流事業への積極的参加について【×】</p> <p>具体的事例： ＜語学教育研究所＞ (1) 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【×】</p> <p>具体的事例： (2) 学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】</p> <p>具体的事例： (3) 地域交流・国際交流事業への積極的参加について【×】</p> <p>具体的事例：</p>
8-3	<p>＜外国語学部＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度の自己点検・評価において検証を行っている。 ・社会連携・社会貢献に関する責任主体、組織、権限、手続きについては、現在まだ明確になっていない。 <p>＜語学教育研究所＞</p> <p>本研究所の社会連携・社会貢献の適切性については年2回の語学教育研究所運営会議、及び研究部会の合同会議（運営委員会・研究部会）を開催し、検証を行っている。</p>
8-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>＜外国語学部＞</p> <p>社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】</p> <p>具体的事例：</p> <p>＜語学教育研究所＞</p> <p>社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】</p> <p>具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

8-2	<ul style="list-style-type: none"> ・『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）のPDF化を終えている。 ・語学教育研究所に改訂作業チームの発足が承認された。
8-3	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生リーダー養成プログラム（MLP）推進事業の推進により2017年度には「多文化共生リーダー」が6名認定される。

【改善すべき事項】

8-2	<p>＜外国語学部＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）のPDFをどの範囲まで公開するかコンプライアンスの確認を行う。 ・多文化共生リーダー養成プログラム（MLP）推進事業の成果を地域社会に還元する。
8-3	<p>＜語学教育研究所＞</p> <p>研究成果の公開や地域社会への貢献という視点から、さらに地域に密接に関連するテーマを選び、講演会やシンポジウムを継続して実施し、その成果を検証する。</p>

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	＜外国語学部＞	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の作業が完了し、社会への公開が行われている。 	→			A	B	
	8-2・2018年度までに『中国語大辞典』改訂のための作業チームを編成するとともに、作業に着手し、併せてPDFファイル化を行い社会へ公開する。							
	8-2・2016年度の事業として「多文化共生リーダー養成プログラム（MLP）推進事業」を推進する。							
	＜語学教育研究所＞	一般公開の講演会を開催する。				B	C	

	8-2 地域住民を対象として、各種言語の担当者による講演会を実施する。				
16年度 目標	<外国語学部> 8-2・『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）のPDF化 ・外国語学部 MLP 事業においてトークセッション、講演会、UNHC と連携しシンポジウム、写真展等を開催する。	・語学研究所所報 ・学部HP, MLP 事業報告書	A		
	<語学教育研究所> 8-2 地域住民を対象に、講演会を実施する。	地域に公開する講演会等のイベントをさらに増やす。	B		
17年度 目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) <外国語学部> 8-2・『中国語大辞典』（中国語学科編纂）（角川書店）のPDFについてコンプライアンスを確認するとともに公開の範囲を定める。 ・外国語学部 MLP 事業においてステートレスネスアカデミー、講演会、UNHC と連携し無国籍写真展等を開催する。	・語学教育研究所と連携しながら運営委員会において承認を得る。 ・実施報告書として提出される。	A		
	(対象期間は2017年4月～2018年3月) <語学教育研究所> 8-2 講演会に地域住民が参加しやすい工夫をする。	地域に公開する講演会の情報を広報する。	A		

IV 評価専門委員会所見

8-2 【現状】外国語学部の2012年度からの計画であった『中国語大辞典』の改訂・公開作業は、2016年度に『中国語大辞典』のPHD化が完了したにもかかわらず、「社会へ公開することは困難である」とのことですが、長年の改訂作業の成果を何らかの方法で公開できるようなさらなる努力が望まれます。

学部としての学外組織との連携・教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への参加、などの取り組みの整備が望まれます。

8-2 【現状】【改善】【目標】語学教育研究所については、『語学教育研究論叢』『語学教育フォーラム』の関係先への送付、およびそのリポジトリ化や研究所主催のシンポジウム開催など大いに評価できます。また、毎年海外機関からの研究員の受け入れは学外組織との連携として評価できますが、今後は受け入ればかりでなく海外機関への派遣も必要と思われます。さらには学部と連携して、地域交流として、語学講座を提供するなどの取り組みが望まれます。

V 所見への対応

<外国語学部>
8-2 【現状】『中国語大辞典』のPDF化により上下2冊4000頁余りのデータが一つのファイルとして750GBに統合されました。書き込み、修正可能なPDFソフトを使用することで、これまで蓄積された改訂作業のための資料を盛り込むことが可能な段階に至っています。今後は、作業チームを発足させ、作業に着手することが検討課題となります。

<語学教育研究所>
8-2 【現状】【改善】【目標】への所見について。(1) 語研から海外機関への教員の派遣は、制度・予算のない現状で実現は困難である。(2) 地域への語学講座の提供は、専任研究員がいない語学教育研究所としては人的にも予算的にも負担が大きく実現できない。大学としての地域交流は地域連携センターの活動への協力を検討する。

VI 次年度への課題

・『中国語大辞典』改訂チームによる作業の実質化と進展状況の確認を行う。

語学教育研究所が地域への語学講座を提供することは、専任研究員がいない語学教育研究所としては人的にも予算的にも負担が大きく実現できない。このことは、Ⅴ「所見への対応」に記した。したがって、中期目標(2014～2018)「8-2 地域住民を対象として、各種言語の担当者による講演会を実施する。」は設定を撤回し、地域交流は地域連携センターの活動への協力によるものとする。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B8-1 大東文化大学の基準別基本方針 HP

<http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html> <既出>B1-5

【追加資料】

『中国語大辞典』（中国語大辞典編纂室編）（1994年3月角川書店刊）参照。

2016年度全学プロジェクト「多文化共生リーダー養成プログラム(MLP)推進事業計画書」

2016年度全学プロジェクト「多文化共生リーダー養成プログラム(MLP)推進事業実施報告書」（外国語学部）